

会議録（要旨）

【開催概要】

会議名称	第25回泉大津市こども・子育て会議
開催日時	令和6年10月10日（木）午前10時00分～午前11時50分
開催場所	泉大津市役所 3階大会議室
出席委員 （敬称略、順不同）	長瀬委員（会長）、久委員（副会長）、檀委員、榎並委員、谷委員、亀谷委員、納谷委員、平委員、秦委員（計9名）
欠席委員	大橋委員、植野委員、秋元委員
事務局	藤原健康こども部長、鍋谷教育部長、谷中健康づくり課長、里見こども育成課長、向井子育て応援課長、深澤障がい福祉課長、藤谷指導課長、大内こども政策課長、大塚教育政策課長、大和スポーツ青少年課長、堀内こども政策課長補佐、細見こども育成課長補佐、永本子育て応援課長補佐、瀧川こども育成課長補佐、青山スポーツ青少年課長補佐、向井誠風中学校校長、末武福祉政策課参事、村田こども政策課統括主査、(株)ぎょうせい3名
会議次第	1. 開会 2. 案件 （1）アンケート・インタビュー調査の結果について （2）第二期いずみおおつ子ども未来プランの推進状況と第三期いずみおおつ子ども未来プランについて 3. 閉会
会議資料	【配付資料】 資料1 就学前児童保護者・小学生保護者アンケートの追加クロス集計 資料2 アンケート・インタビュー調査の結果概要 資料3-1 泉大津市小中学生アンケート調査報告書 資料3-2 泉大津市若者アンケート調査報告書 資料4 小・中学生グループインタビュー 結果報告 資料5 第二期いずみおおつこども未来プランの推進状況 資料6 第三期いずみおおつこども未来プランについて 資料7-1 第三期いずみおおつ こども未来プラン（案） 資料7-2 基本理念について 追加資料 こども計画策定スケジュール
公開／非公開	公開
傍聴者	2名
その他の必要事項	なし

【議事要旨】

事務局	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none">・会議成立要件の確認（委員 12 名中 9 名が出席のため成立）
会長	<p>2. 案件</p> <p>(1) アンケート・インタビュー調査の結果について</p> <p>●資料 1～資料 4 に基づき、事務局から説明。</p>
副会長	<p>◇本件につきまして、何か資料を読み取られて感じられたことや、今の説明に対する質問やご意見はいかがでしょうか。</p> <p>◇ありがとうございます。統計検定はちゃんとやられていますでしょうか。</p> <p>例えば、資料 2 で様々なクロス集計をされていますが、これは検定をして統計学的に有意となっているのでしょうか。</p> <p>二点目は、スマートフォン利用に関する設問では、長時間利用層を「5 時間以上」にしていますが、統計学的根拠はありますか。利用時間 4 時間以上と 3 時間以上とでは意味が変わります。統計学的な話になりますが、順位相関係数をとれば、スマートフォンの利用時間が様々な影響を与えていることがわかるので、あえてここで二群に分けなくてもいいような気がします。</p> <p>三点目、インタビュー調査も適当に抜き出すのではなく、統計学的にきちんと押さえていけば、様々なことが見えてくるのではないかと思いますので、今後どうされますか。</p> <p>最後の四点目は、アンケート調査では全体的傾向を見ることが多いですが、特定層に注目することも重要です。具体的には、ひきこもり層やヤングケアラー層が例えばどんな居場所を望んでいるのか、どういうところで、どういう反応をしているのかが見えてくると施策展開にも繋がってきます。全体的傾向を見る一方で、施策に繋げるために必要な分析があると思いますので、そこを今後詰めていってほしいと考えます。</p>
事務局	<p>●検定について、統計学的にはもっともお話だと思います。検定をして統計的に優位であると、論文を書くような場合は行うわけですが、今回は限られたサンプルの中で調査を行った結果のご報告となるわけですので、不十分で申し訳ないとは思いますが、傾向を見るというところで、ご理解をいただければと思います。おっしゃっていただいた、引きこもりやヤングケアラーの方に関しては、引き続き、より深めた形で検証したいと思います。</p> <p>二点目のスマートフォン利用の 5 時間から長時間という分け方について、本日はご意見として受けとめさせていただきます。三点目のインタビュー調査の解析についても、受けとめさせていただきますので宿題とさせていただきます。</p> <p>●追加で、四点目の特定層について今後調査を進めていくという点について、第三期の計画期間において、ヤングケアラー等については調査報告を検討しています。具体的な方針の記載はないですが、実施の検討をしたいと考えています。</p>

副会長	<p>◇論文の場合でなくても、アンケートの集計をする限りは統計検定はやらないといけないのではないのでしょうか。他のクロス表で、統計的に優位が出てくるかもしれません。そこが恣意的に分析されていませんか。</p> <p>統計検定をとるのは、そんなに手間ではないので、ぜひやってほしいと思いますし、検定をした方が説得力がつくかと思います。ぜひともよろしく願います。</p>
会長	<p>◇私からも一点だけ、資料3-2の32ページの「市役所にどんなことに取り組んでほしいか」という質問に対して、比較的低かった項目については、もう満足しているのか、または必要性は感じていないのか、もう少し考察していただければと思います。「生活が苦しい子どもや家庭を支援する」が高かったのが意外で、自分自身あるいは周囲にそういった状況を感じているのか、若者層に困窮状態が広がっているのか、結果の考察を深めていただければ、行政として取り組んでいく課題もはっきりすると思います。出た結果の読み取りについても、また深めていただければと思います。</p>
副会長	<p>◇さきほど会長がご指摘いただいた項目は、当てはまる番号すべて選ぶという形ですので、多変量解析にかけていただければ傾向が出てくるはずです。10分もあればできるので、多変量解析にかけてもらえれば、解釈がやりやすくなるはずですので、そこもお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>◇説得力をきちんともつという意味でも、また相関関係があるものはきちんと相関関係を出しながら解釈をしていくというのも大事だと思いますので、詳細な分析を深めていただければと思います。</p>
委員	<p>◇資料3-2 12ページ「引きこもり状態から改善した経験」についての質問で、学校の先生やスクールカウンセラーに相談したことがあるという比率がすごく少ないという点に驚きました。それに比べて「趣味の活動に参加した」「自分の努力で乗り越えた」が多くて、ぐっときた半面、情報がなくて能動的に探すのも難しいと思いますので、それをもう少しサポートできるような仕組みや情報があればいいなと思いました。</p>
事務局	<p>●居場所作りなど、市でも様々な支援を行うと同時に広報など情報発信も併せて進めていきたいと思います。</p>
委員	<p>◇資料3-1 23ページ「勉強でわからないことが出てきた時期は」という質問への回答について、「中学1年生のころ」が最も高くなっています。電子媒体の長時間使用との関係については、どちらが先かというのが大きな問題だと思っています。「わからないから電子媒体を長時間使用する」ということもあると思います。</p> <p>資料3-2 17ページの「外出ができなくなった理由」で「学校になじめなかった」「中学校時代の不登校」「人間関係がうまくいかなかった」などが高い割合で見られます。中学校と小学校の大きな違いを感じます。</p> <p>他者と繋ぐ・繋がれるという役割に大きなハードルを抱え、自分自身も変化がある思春期にこそ、どう繋いでいくかお力添えいただきたいと思いました。</p>

会長	◇おっしゃる通りかと思います。電子媒体の長時間利用者層は、そこに頼らざるをえなかったというところで、それがもし学校が変わるタイミングの中学一年生で起きているのであれば、どこにポイントを置いた支援が必要か、読み取ることができると思いますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。
委員	◇資料3-1 10 ページにて、ゲーム機やスマートフォンを長時間使っている子どもが多いことがわかりますが、その内容が何か気になると思いました。自分の子どももすごく見ているのですが、ゲームで遊んでいる時もあれば、サッカーの動画を見て研究したり、受験に関する教育系動画で情報収集している時もあります。ひとくくりにせずに、もう少し細かく電子媒体利用の詳細が分かった方がよいと思います。
会長	◇動画を見ている74パーセントの中身についても、必要な情報収集も含まれていると思うというご意見でしたので、こちらについてもご検討いただければと思います。 今まで出していただいた意見については、さらに詳細に分析していただいたり、他の調査項目とクロスをしていただいたり、現状把握、比較作成していただければと思います。
会長	◇事務局は案件（2）について説明してください。
事務局	●資料5～資料7-2に基づき、事務局から説明。
会長	◇ただいま説明いただきました事柄と、全体のトーンを決定づける基本理念についてもご意見いただければと思います。
委員	◇資料7-1 38 ページ「主要施策3 豊かな心を育む教育・保育の推進」において、全体的に耳障りのいい内容で、これが全部叶えば素晴らしいと思いますが、具体性がもう少し必要だと思います。38 ページ（2）の「学校教育の推進」について、和泉市では小中一貫校が増えています。何のために小中一貫校にするのかという目的や狙い、理念などをもう少し詳しく教えてほしいです。東京では、幼小中一貫校や施設一体型の一貫校の取り組みが始まってきていて、大阪でもできたら良いと思うのですが、やはり小1の壁が大きく、別施設というところで、それぞれの意見があり、なかなか難しいところです。その幼小中の接続をどうされるのか、今後はどういった計画で進めていかれるのかを、具体的に知りたいです。また、51 ページ「主要施策9 ひとり親家庭支援の推進」については、昨今は民間団体もこの点に注力しています。もっと地域の団体や民間の力を借りるといった内容も、計画と一緒に入れてもらえたらと思います。 岡山県で始まった支援で「コミュニティフリッジ」という、ひとり親家庭に限定した食料物資の支援があります。大阪では堺市、泉佐野市、和泉市にあり、倉庫のような場所から、無料で24時間いつでも食料を取りに来てもいいという支援です。泉大津市でも子育て応援課だけで頑張るのではなく、もっと周りを巻き込んでいかれたらいいと思います。

事務局	<p>●学校教育の推進に関して、本市では小中一貫教育は施設分離型の小中一貫教育へということで、令和5年度から全中学校区小中一貫教育にということで進めております。各中学校区で連携会議をしていく中で、「就学前小中学校15年間」ということで就学前施設も会議に入らせていただいております。小1の壁について、本市では幼保認小接続期プログラムを「いちご接続期プログラム」と称して取り組んでから10年近く経ちますが、それぞれが会議を進め、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムも進めております。現在は公立だけでなく、民間の就学前施設とも進めていこうとしております。その中で目指すこども像を、中学校区で一体で考えながら、目指すところを一緒にしてやっていきたいと考えております。</p>
委員	<p>◇資料7-1 38ページの学校教育の推進に関連して、こどもたちへのインタビューで、一方的に意見を押し付けずにこどもたちの意見を聞いてほしいという意見が強いというお話があったと思うのですが、小津中学校でスクールポリシーをこどもたちが作ったというお話があって、すごく良い取り組みだと思ったのですが、今後他の中学校でも、こどもたちの意見を尊重する取り組みを行う予定はありますか。</p>
事務局	<p>●中学校の三校共に、「こども主体の学校づくり」を掲げています。進捗に差があり、小津中学校は4年前にルールメイキングからスタートし、その発展系として今の形となっています。誠風中学校では今年度ルールメーカーを募集し、生徒会とルールメーカーと一緒にこども主体で学校運営を行う流れです。東陽中学も考え方は同じなので、今後取り組んでいってもらえるものと思っております。</p>
委員	<p>◇先ほど「施設分離型の小中一貫校」とのお話が出ましたが、「施設分離型」というのがあまりイメージが湧きません。どのようなものか教えてください。</p>
事務局	<p>●「施設分離型」は、学校の建物は別々ですが、目指すこども像を統一し、各校のグランドデザインがあるのですが、それを連携して中学校区のグランドデザインも立てるといふところになります。</p>
会長	<p>◇現在ある建物はそのまま、教育理念や育てたい力を共有していくという形でしょうか。</p>
事務局	<p>●その通りでございます。</p>
副会長	<p>◇「施設分離型」は従来のように小学校と中学校は別々に存在しますが、学校の先生方が連携を深め、それがうまく繋がっていく、というものです。和泉市ではその取り組みを十数年前からやっています。今までと変わらず小学校6年間、中学校3年間と通いながら、もっと連続して繋がっていくことを目指している、という風にご理解いただければと思います。</p>
副会長	<p>◇今までのところで、気になったところはいくつかあります。一点目は他の委員さんがおっしゃった幼保小中の連携のお話出していただいたのですが、「切れ目のない支援」というところがキーワードで言えると思います。資料7-1 31ペ</p>

ージあたりに、こういうキーワードをしっかりと書いていただければ、この計画の大きな柱がよく分かると思います。すべての分野にわたって「切れ目のない支援をします」と、前半でしっかりと書いて欲しいと思います。

二点目は、もっと市民やNPO法人などとうまく協働していくことが重要だと思います。総務省の報告書でも、「サービスプロバイダーからプラットフォームビルダーになりましょう」と書かれています。今まで、行政が自らサービスを提供してきましたが、いろいろな人が集まって意見交換し、協働が生まれるようなプラットフォームを作るといことが今後の市役所・市役所職員の大きな役割になります。それも大きな柱として、ぜひとも計画書の前半などにしっかりと記載していただきたいです。泉大津市はコンパクトなので、市役所が手助けしてしまうのが、良いところでもあり、弱点でもあると思います。もっと市民や地域の力を引き出せるような方向に進めばよいと思います。

具体的には、例えばこども食堂の連絡会を市役所中心で行って、みんなで情報交換しながら高めあえるプラットフォームを準備したり、こどもたちのインタビューでもシープラ・シーパsparkの評価が高かったのも、ここをうまく活用しながら、子育て支援にも繋げられないかと思っています。

情報提供を兼ねてお話ししますと、茨木市で去年11月に、複合施設「おにクル」というものを作りました。施設内には図書館やこども支援センター、プラネタリウムなどがあり、それぞれ違う市役所の部署が担当しているのですが、連携していかないと複合施設の意味がないということで、必ず月に2回連携会議を実施しています。子育て支援課が有料の「もっくる」という遊び場を運営し、健診に来られた方に1年間有効の無料券を配布して健診を増やしたり、無料で遊べるスペースの「わっくる」では保健師が駐在してつぶやきのような小さな声を拾って、施策に活かす取り組みをしています。さらに施設内で小中高校生が自習したり遊んだりしていますが、小中高校生と乳幼児がもっと交じり合えないか、積極的な繋がりを作ろうとさせていただきます。

泉大津市には残念ながら複合施設はありませんが、別れていても連携や接続がもっとできればと思います。連携や接続を大切にしようという思いをしっかりと、柱として書いていただきたいと思います。

また30ページの「基本理念」については、泉大津らしさがないように感じます。以前、地域福祉計画の時の理念で作っていただいた「目指せ8万人の大家族」は大変良かったので、そういったコンパクトな泉大津だからこそそのキーワードをいれていただきたいです。「こどもまんなか社会」という良いキーワードが出てきていますので、泉大津流に工夫して盛り込めば、パンチのある泉大津らしい理念ができてくるのではないかと思います。

事務局

●引き続き、資料7-1 31ページ以降を事務局から説明。

会長

◇追加で説明していただいたことも踏まえて、何かご質問はいかがでしょうか。

副会長

◇市民活動を応援する「泉大津市がんばろう基金」には、こども対象の活動もあります。がんばろう基金は5年限りなので、市の委託事業として継続できないでしょうか。市役所が自ら動くだけでなく、こども対象の団体の情報をキャッチし、うまく繋げて、がんばろう基金とこども支援をどのように連携していくかという

	<p>のも一つの柱にしていきたいと思えます。</p>
事務局	<p>●がんばろう基金が終わった後という話で、本市では子育てサークルへの補助金を始めました。金額は大きいとは言えませんが、連続性がある支援ができるよう、検討しています。</p>
事務局	<p>●がんばろう基金との繋がりとしては、「こども体育あそび net」という団体があり、5年間基金の採択を受けられ、その後、がんばろう基金から情報提供を受けて、市が予算化した実績があります。今後も関係課と情報連携して取り組みを進めていきたいと思えます。</p>
副会長	<p>◇用語の違いには留意が必要で、「委託」と「補助」の意味合いは大きく異なります。「補助」は「市民が自ら行う活動の一部を手伝う」という意味で、「委託」は「本来市役所が行うべき仕事をどなたかに任せる」という意味です。本来市役所がやるべき仕事をしてくださっているの、補助ではなく、委託として人件費なども出していただきたいと思えます。適宜用語の使い分けをお願いします。</p>
委員	<p>◇資料7-1 50 ページ「主要施策8 障がいのあるこどもへの支援の充実」のところで一点気になります。「インクルーシブ教育・保育」についてです。発達特性があっても、個々の特性に応じたサポートをすることで、障がいに至らなく成長することができるというエビデンスがあるので、小中高と支援を繋いでいくことが大切です。「全てのこどもたちが同じ場で共に学び・・・」という表現がありますが、「同じ場で」と限定されていることに違和感を感じます。インクルーシブ教育はそれぞれの個性に合わせて、こどもに応じた支援をしていくことだと思います。全てのこどもを同じ場所に入れてしまえばいいのではなく、支援が繋がることで、その子の自信が保てて、心身ともに健康でその先の成長に繋がることができると思うので、ここのインクルーシブ教育の理念を再検討していただきたいです。</p>
会長	<p>◇こどもに応じた支援が繋がることで、それが障壁にならず、安心した学校生活や生活を送ることができるように考えていただければと思えます。</p>
会長	<p>◇基本理念については、委員の皆様がおっしゃられた市民参加という部分を前面に出す方法も一つだと思います。こどもが真ん中であることはもちろんですが、一人ひとりの市民みんなが子育てに参加するというイメージも、小さい市だからこそいいのではないのでしょうか。市民参加であったり、こどもの意見も尊重するという、市民みんなの声も力も出せるというような趣旨はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>●ありがとうございます。いただいた意見を踏まえて、また案として基本理念を出させていただきます。まだ一部国の方から詳細を示されていない部分もあるため、また反映したものを改めてご提案させていただきます。</p>
委員	<p>◇今回アンケートの調査にて、こどもたちから直接意見を聞かれたということですが、施策を進めるにあたって、こどもの意見を聞いていくということは本当に大</p>

切だと思います。時代の流れは早いので、大人の感覚でこどものことがどれだけ分かるのかなと感じています。こどもの意見を聞くことで大人が学ぶこともあると思いますので、こどもの力を借りて、施策を進めていくというのも考えていただきたいと思います。

副会長

◇以前フィンランドの環境大臣が来日した際、「フィンランドには障がい者は一人もいません。もしいるとすれば、それは国の責任です。」とお話しされました。誰もが障がいを感じないような環境づくりや社会づくりをすれば、誰一人障がいを感じないというメッセージもあります。例えば私は眼鏡を日常的に使用していますが、眼鏡という道具があるからこそ通常の生活ができます。それと同じように、環境を整備することによって障がいを感じさせない社会を作っていくというのが、本来の姿かなと思います。そのために非常に重要な役割を担っているのは市役所だと思っています。そういう観点で全体のカテゴリーをブラッシュアップしていただきたいと思いました。

さらにこどもの数の問題ですが、「異次元の子育て支援」も取り上げられる中、フランスは先進国の中でもこどもの数が増加しています。統計データを見ていくと面白いことがわかって、フランスでは婚外子が増えれば増えるほど、こどもの数が増えています。日本はまだまだ家庭でこどもを育てようという考えが根強いですが、フランスはひとり親もそれ以外も、同じようにこどもが育てられます。それだけ社会制度が充実しているということです。その点が日本はまだまだ制度が整っていないと思います。安心してこどもを生み育てるためにどうすれば良いか考えていただきたいです。国の制度を待たずに、泉大津発のユニークな制度を作るなどして、がんばっていただければと思いました。

事務局

●追加資料を使い、スケジュールについて説明。

●本日ご意見いただいた未来プランにつきまして、ご意見を反映し、12月頃に皆様の意見をいただく機会をいただければと思っております。開催日程や方法は、別途ご連絡をさせていただきます。また来年2月頃にも会議の開催を予定しておりますが、こちらはパブリックコメントの実施後にその結果と計画への反映状況等について説明を行う予定です。こちらも日程につきましては別途ご相談をさせていただきます。

パブリックコメントについてですが、12月頃に委員の皆様には計画案を見ていただき、併せて市議会の方でも説明をさせていただきます。パブリックコメントでは、市民の皆様には計画案をご覧いただき、ご意見をいただく機会とし、いただいたご意見はホームページ等で公表させていただきます。最後に、本計画は市民の皆様には手に取っていただきやすいよう概要版を作成予定となっております。

3. 閉会

以上